

事業の基礎情報

実施主体	網走市
事業実施地域	網走市
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・福祉、まちづくり
共創パートナー	株式会社網走ハイヤー、網走北交ハイヤー株式会社、網走バス株式会社、網走市社会福祉協議会、網走医師会、コープさっぽろあばしり店、BASIC駒場店、BASIC橋北店、CITYあばしり店
運行形態	A I 配車システムを活用した乗合タクシー（道路運送法第21条許可）
運行主体	株式会社網走ハイヤー、網走北交ハイヤー株式会社

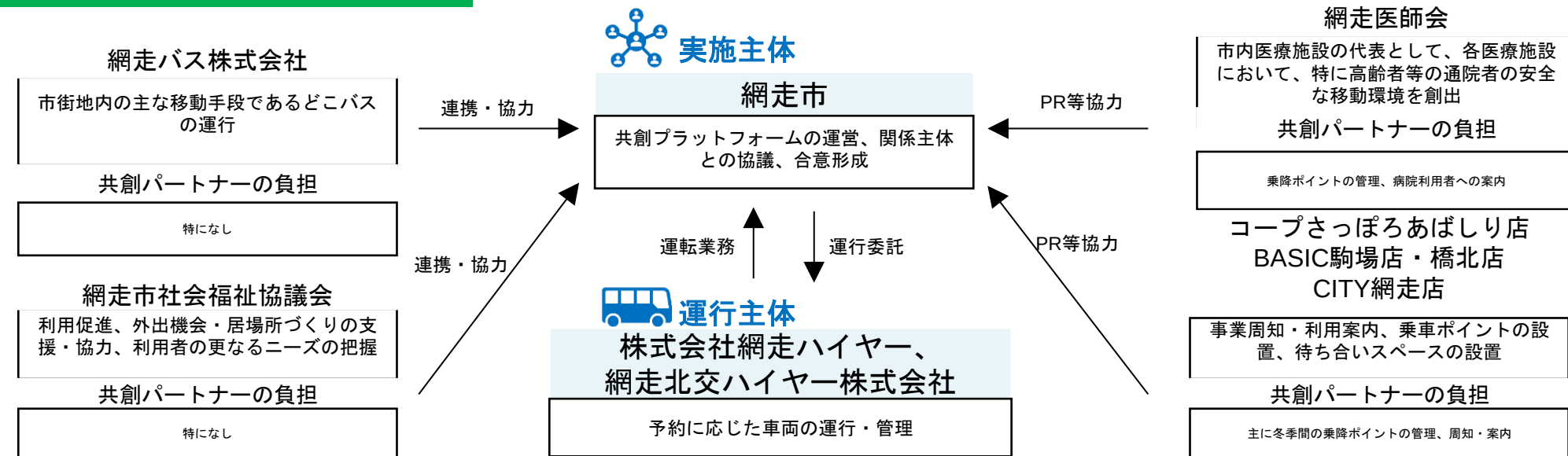
現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

網走市の郊外地区には路線バスや鉄道網の無い交通空白地帯が多く存在する一方で、病院や買い物施設は中心市街地に集積しており、郊外地区から中心市街地までは車で片道平均25分ほどかかるため、自家用車を持たない住民にとって通院や買い物の手段が乏しい状況にある。令和6年5月末現在、郊外地区の人口は、2,911人であり、令和2年の国勢調査の結果、郊外地区の65歳以上の人口は1,066人であり、概ね郊外地区に住む36%は65歳以上となっている。また、郊外地区は面的な広がりがあることに加え、地区人口が分散しており、定時定路線形式の交通体系は不向きである。

地域公共交通計画への位置づけ （位置づけ予定を含む）	有	運輸局・運輸支局への事前相談	北海道運輸局 北見運輸支局
令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無	無		

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

市内ハイヤー事業者2社と連携・協働し、ミーティングポイント型デマンド交通として乗合タクシーを運行する。予約管理や最適ルート計算にはAIを活用し、事業者間の連携を容易にする。

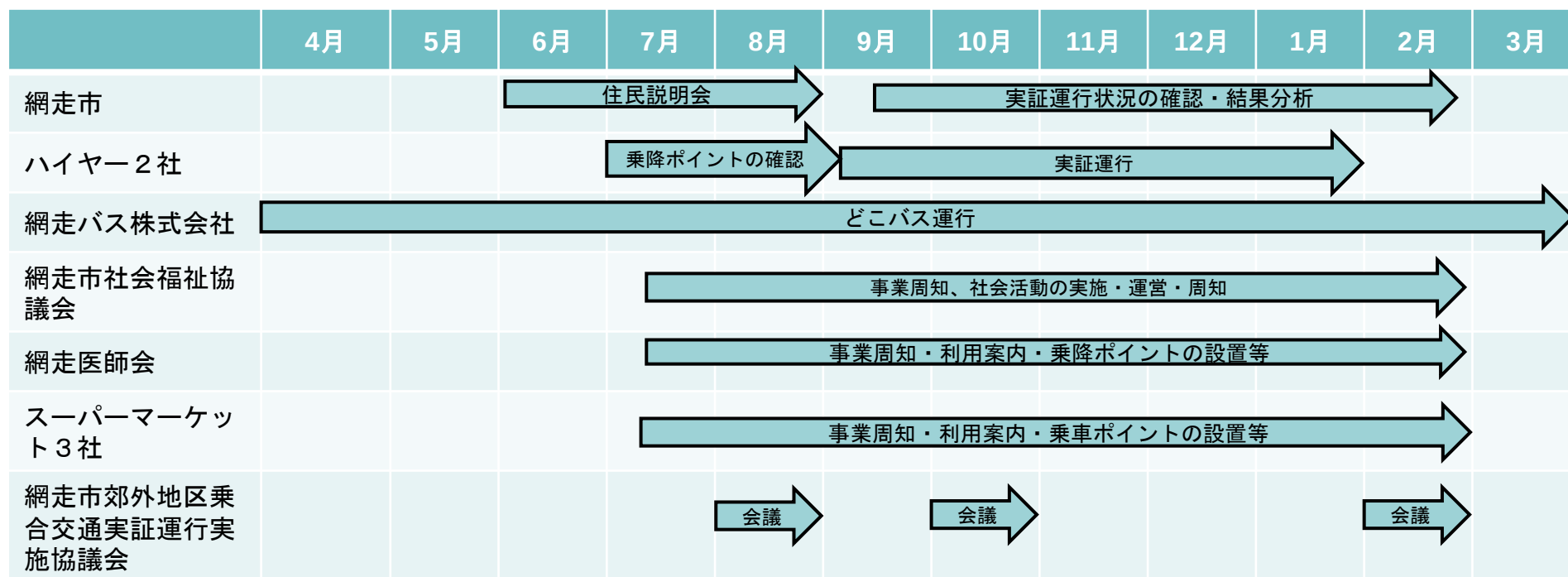
(地域関係者との連携・協働)

網走医師会や市内に店舗を構えるスーパーマーケット4店と連携し、ミーティングポイントの設置や待ち合いスペースの活用等により、交通空白地の多くの住民の通院・買い物等が容易になり、特に高齢者の健康の維持が見込まれる。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

乗合タクシーの市街地での降車ポイントは病院やスーパーマーケット・公共施設としており、市街地内の移動については、網走バスが運行するAIオンデマンドバス「どこバス」もしくは通常のタクシーが予想されるが、いずれの手段を活用しても、長時間の歩行は必要なく、高齢者に優しい交通網の接続を形成する。

事業実施手順・スケジュール



取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

- ・ どこバス利用者増
- ・ 市街地ハイヤー利用者増

（地域全体に及ぶと想定される効果）

- ・ スーパーマーケット並びに近隣小売店の利用者増（購買機会の増加）
- ・ 社会活動参加者増

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	○	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備		通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

次年度以降の計画として、運行エリアの分割を減らすことで、市街地へ移動する機会を増加させ、一日あたりの利用者の増加を図る。また、一日あたりの利用者の増加に伴い、複数台のタクシーを運行させるのではなく、一台あたりの乗車可能人数を増やすため、ワゴン型タクシーの導入や運行便数の増加の検討などを含めた実証実験を計画している。

本年及び次年度の実証実験の結果を踏まえ、令和8年度より実装予定。

資金面	網走市負担金、利用料収入
人材面（運転手の確保）	市で実施している公共交通人材確保支援事業により運転手の確保を引き続き図る